地域でも進む新聞活用

うか？

兵庫県ＮＩＥ推進協議会は、子どもや若者へのＮＩＥ普及を進めている。さらに本年度は全国で初めて、「地域ＮＩＥ」を重点項目

語や社会などの教科書でも「新聞の多様な活用」の項

象）が「地域ＮＩＥ」の新規モデルの対象となった。

奇心がうかがえる。小野のコミセンの成果も同様だ。

（本社ＮＩＥ＝第1日曜に

ひょうご

英文自動添削ソフト開発

単語ミスや文章構成、瞬時にチェック

甲南大（神戸市東灘区）知能情報学部講師の永田亮さん（33）が、次世代テストの研究を手掛ける教育測定研究所（東京）と、英文を自動添削するソフトを共同開発した。単語の誤りや前置詞などの抜けをはじめ、文章の構成まで瞬時にチェックできる「日本ではほかに例がないソフト」（永田さん）という。（黒川裕生）

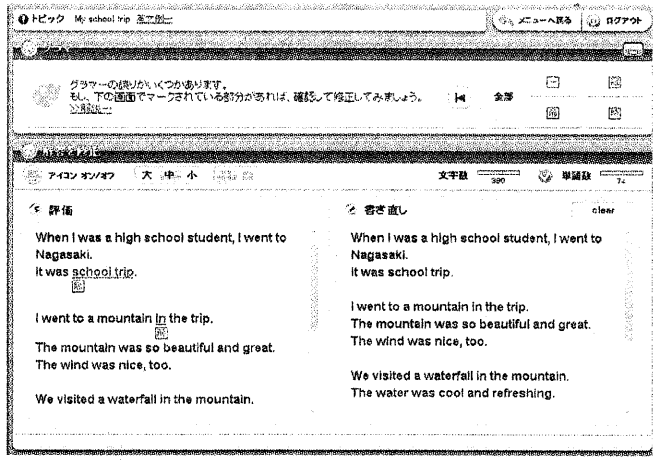
甲南大講師 永田さん「画期的機能」評判に

「スペルミスではありませんか？」「単語の組み合わせとして不自然です」―。指摘する言葉が画面に表示される。

同社が販売している「ＣＡＳＥＣ ＷＴ」。インターネット上で英文を書いて採点ボタンをクリックすると、正誤や適否を判定できる。「文章の構成」「文法」「単語の組み合わせ」など6項目について、画面に色が付いたり、コメントが出たりする。間違いを指摘された個所を書き直せば、文章の精度を上げることができる。

例えば作成した英文の中にわざと「Ｈｅ ｉｓ ｖｅｒｙ ｂｉｇｇ．」という一文を忍ばせてみよう。採点ボタンを押すと「ｂｉｇｇ」の色が変わり、「スペルミスではありませんか？」と指摘が入った。さらに「修正候補」として正しいつづりの「ｂｉｇ」まで示してくれた。

文章のテーマも「最近のニュース」「趣味」などから任意で設定できる。採点するとテーマに即した「おすすめワード」が例示されるため、それらの単語を使えば書き直しやすくなる寸法だ。



自動的に英文を採点してくれるソフト「ＣＡＳＥＣ ＷＴ」の画面

現在、主な用途は、大学の学習用を想定している。英文リポートなどは初歩的な間違いを排除した上で提出できるため、教員の負担が軽減される見込みだ。もちろん受験生の自学用としても使える。昨年7月にβ版をリリースしたところ、大学や企業など51団体がＩＤを取得して試験的に使っており、「今までのソフトにはなかった機能だ」などと、評判は上々という。

受験生の自学用にも

永田さんは人間の言語をコンピューターに処理させる「自然言語処理」が専門。特に、社会で使われる話し言葉や文章を大量に集積、データ化して言語研究や分析に役立てる「コーパス」の作成はライフワークのひとつだ。これまで小学生の読書感想ブログから成る「甲南こどもコーパス」や、甲南大生の英作文を基にした「Ｋｏｎａｎ－ＪＩＥＭコーパス」を構築、公開してきた。

同社から打診を受け、２００６年から開発に取り組む同ソフトも、ネーティブらの書いた文章をデータとして蓄積することで採点が可能に。「コーパスの実績があればこそできた」と永田さん。「ソフトは今後も継続的に機能を強化していきたい」と話しており、11月中にも本格的なバージョンの販売を開始する。問い合わせは、同社ｅ－Ｔｅｓｔｉｎｇ事業部☎０３・５７７５・９０７３